



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2020年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2020年度

ANNUAL REPORT 2020年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04
II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 兼任研究員	26
3) 外国人研究員（客員）	26
III. 教育活動	27
1) 講義	28
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	33
IV. 研究成果および刊行物	35
1) 一橋ビジネスレビュー	36
2) ワーキングペーパー	41

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4 月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2020年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

2021年1月20日 久野愛

“Visualizing Taste: How Business Changed the Look of What You Eat”
(京都大学大学院経済学研究科 講師)

2. ブラウンバッグランチセミナー——2020年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せずに、比較的アールリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

6月3日 田頭拓己
“How Does Warehouse Automation Contribute to Multichannel Retailers’ Sales?”
(一橋大学大学院 経営管理研究科経営管理専攻 講師)

9月16日 中島賢太郎
“The Role of Online Communication on Innovation”
(一橋大学イノベーション研究センター 准教授)

3. 国際シンポジウム等

■ 「IIR Summer School 2020」

Venue: Zoom Online

Date: August 25-26, 2020

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

August 25

Language: Session 1: Japanese, Session 2-3: English

Opening:

13:30-13:45: Yaichi AOSHIMA

Session 1: 13:45-15:05 (Chair: Byeongwoo KANG)

13:45-14:25: 六田 充輝

「イノベーションの現場＝インサイダーからみたイノベーションの
プロセス ～高分子事業での一例～」

14:25-15:05: 穴井 宏和

「スタートアップ CEO のソーシャル・キャピタル（人的関係資産）が
時価総額に及ぼす影響の研究」

Session 2: 15:15-16:35 (Chair: Tohru KOBAYASHI-YOSHIOKA)

15:15-15:55: Takahiro INADA

“Value Creation Logic of Platform Businesses: A Comparative Case Study
of the Founding Process”

15:55-16:35: Eko Heru PRASETYO

“Legitimacy Building in the Informal Sectors: Case of Digital-driven Startups
in Indonesia”

Session 3: 16:45-17:45 (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ)

Guest Speaker

16:45-17:45: Shigeru ASABA

“Strategy Scholar’s Research on Family Firms”

Closing:

17:45-17:50: Byeongwoo KANG

August 26

Language: English

Session4: 13:30-14:50 (Chair: Kentaro NAKAJIMA)

13:30-14:10: Kyle HIGHAM

“Patent Quality: Systematic Analysis and Measurement”

14:10-14:50: Hideto KOIZUMI

“The Role of Economic Policies to Human-substituting Innovation”

Session 5: 15:05-16:25 (Chair: Atsushi OHYAMA)

15:05-15:45: Wonsub EUM

“Knowledge in Similar Economies: Industrial Relatedness as a Source of Knowledge Specialization”

15:45-16:25: Hideji KOBAYASHI

“Residual Income CAP Model to Measure Competitive Advantage Period and Intangible Asset Value”

Session 6: 16:40-18:00 (Chair: Masaru KARUBE)

16:40-17:20: Ramesh KRISHNAN

“The Effect of Repeat Collaboration and Team Size on Organizational Performance: Examining the Moderating Role of Creative Task through Simulation Approach”

17:20-18:00: Toshiki FUKUMOTO & Chiaki ITO

“‘Mutual Affection’: Exploring Tactics for Initiating a Recurring Dialogue between Practitioners and Researchers”

Closing:

18:00- 18:15: Yaichi AOSHIMA

II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2020年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

青島矢一（編）『質の高い研究論文の書き方：多様な論者の視点から見えてくる、自分の論文のかたち』白桃書房，2021年3月，172頁

1.2. 翻訳

マイケル・A. クスマノ，アナベル・ガワー，デヴィッド・B. ヨッフィー（著），青島矢一（監訳）『プラットフォームビジネス：デジタル時代を支配する力と陥穽』有斐閣，2020年12月，376頁

1.3. 論文，本の1章

青島矢一・一ノ瀬裕城・田浦英明「既存企業からの資源循環による新事業創出」『一橋ビジネスレビュー』68巻1号，2020年6月，14-31頁

青島矢一・村上隆介「旭化成のコーポレート・ベンチャーキャピタル：ベンチャー投資による新規事業の創出」『一橋ビジネスレビュー』68巻1号，2020年6月，64-80頁

六田充輝・青島矢一「ビジネスケース：クラレ 日本発のエンプラ『ジェネスタ』とそのイノベーションのプロセス」『一橋ビジネスレビュー』68巻3号，2020年12月，134-147頁

青島矢一「質の高い研究論文の4つの側面と研究者の選択」青島矢一（編）『質の高い研究論文の書き方：多様な論者の視点から見えてくる、自分の論文のかたち』白桃書房，2021年3月，所収，146-157頁

1.4. その他

青島矢一「日本・イノベーションの有効策：大企業の余剰資源を新興企業の革新に結合（第60回エコノミスト賞受賞記念論文）」『週刊エコノミスト』8/11・18合併号，2020年8月，42-43頁

青島矢一「コロナ後の日本企業（上） 組織超え経営資源を結べ」『日本経済新聞』朝刊，経済教室欄，2021年7月21日，26面

2. 受賞

「Emerald Literati Awards for Excellence 2020」

（受賞者：Yong-Ki Min, Sang-Gun Lee and Yaichi Aoshima, 研究成果：“A Comparative Study on Industrial Spillover Effects among Korea, China, the USA, Germany and Japan”, 2020年12月）

研究・イノベーション学会 第35回年次学術大会「論文賞」

（受賞者：松島一成・青島矢一・高田直樹，研究成果：「公的支援プロジェクトにおける企業と研究支援機関の関与の影響」，2020年10月）



市川 類

■ 履歴

- 1988年 東京大学教養学部基礎科学科第二卒業
- 1990年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
- 1990年 通商産業省入省
- 1997年 マサチューセッツ工科大学 技術・政策プログラム修士課程修了
- 2001年 経済産業省産業技術環境局 産業技術政策課課長補佐
- 2004年 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）企画調整課長ほか
- 2006年 資源エネルギー庁 新エネルギー等電気利用推進室長
- 2007年 日本貿易振興機構（JETRO）ニューヨークセンター情報技術部長
（情報処理推進機構（IPA）ニューヨーク事務所長）
- 2010年 経済産業省産業技術環境局 産業技術総合研究所室長
- 2011年 長岡技術科学大学 経営・情報系 教授
- 2013年 政策研究大学院大学 科学技術・学術政策プログラム博士課程修了
（博士（政策研究）取得）
- 2013年 内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 内閣参事官
- 2017年 産業技術総合研究所 人工知能研究センター副研究センター長
人工知能研究戦略部長（2018年～）
臨海副都心センター所長（2019年～）
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

市川類「政府のデジタル化と生産性の向上」『一橋ビジネスレビュー』68巻4号, 2021年4月, 38-50頁

1.2. その他

市川類「『日本のデジタル化』は『デジタル人材の活用』にかかっている」『リベラルタイム』2020年12月号, 22-23頁

市川類「連載 デジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎知識（1）～（6）」『Tech Note』イプロス社, 2021年4月7日, 4月28日, 5月21日, 6月3日, 6月18日, 7月2日
<https://www.ipros.jp/technote/basic-digital-transformation/>

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, 学会・コンファレンスペーパー

市川類「何故、日本の行政手続のデジタル化は遅れているのか：海外比較組織論からの考察」IIR ワーキングペーパー WP#20-14, 2020年8月

市川類「AI 原則の体系化と今後のガバナンスの方向：デジタル・AI におけるイノベーションと社会制度の共進化」IIR ワーキングペーパー WP#20-15, 2020年10月

市川類「何故、日本のデジタルイノベーションは遅れているのか：デジタルイノベーションシステムの比較制度分析からみた日本企業・政府の構造的課題」IIR ワーキングペーパー WP#20-16, 2020年12月

市川類「イノベーション論からみたデジタルトランスフォーメーション (DX)」IIR ワーキングペーパー WP#21-02, 2021年2月



イバ パドロン＝エルナンデス

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B. Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M. Sc. 取得)
- 2017年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長
- 2019年 スtockホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科 Ph. D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. コンファレンス, 学会発表

- Padrón-Hernández, Ivar, “Institutionally Derived Strategic Influence of MNC Subsidiaries,” Annual Meeting of the Academy of International Business (AIB), July 1, 2020, online, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “Institutionally Derived Strategic Influence of MNC Subsidiaries,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 18, 2020, online, refereed
- Padrón-Hernández, Ivar, “Institutionally Derived Strategic Influence of MNC Subsidiaries,” Annual Meeting of the Academy of Management (AOM), August 7, 2020, online, refereed

2. 受賞

- Society for the Advancement of Management Studies (SAMS) より 「The Grigor McClelland Doctoral Dissertation Award 2020」
(受賞者：イバ パドロン＝エルナンデス, 研究成果: “When International Strategy Meets Local Institutions: Subsidiary Influence in the Context of Headquarter Initiatives”, 2020年7月)



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2016年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

江藤学（著）『標準化ビジネス戦略大全』日本経済新聞出版，2021年7月，448頁

1.2. 論文，本の1章

江藤学・鷺田祐一「連載 日本発の国際標準化 戦いの現場から（10）：高周波関連部材：『測る』力による国内産業の支援」『一橋ビジネスレビュー』68巻1号，2020年6月，118-125頁

1.3. その他

江藤学「新しい時代における戦略的標準化の活用」『法律のひろば』（ぎょうせい（編））Vol. 73, No. 12, 2020年12月，44-50頁



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph.D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
（～2018年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

大山睦・北川諒・堀展子「データやAIの利用は生産性とイノベーションに結びつくのか」
『一橋ビジネスレビュー』68巻4号, 2021年3月, 24-37頁

Ding, Waverly, Atsushi Ohyama and Rajshree Agarwal, “Where is the Promised Land? Gender Gap in Earnings of Ph.D. Scientists and Engineers in Academia and Industry,” *Nature Biotechnology*, forthcoming, refereed

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Braguinsky, Serguey, Atsushi Ohyama, Tetsuji Okazaki and Chad Syverson, “Product Innovation, Product Diversification, and Firm Growth: Evidence from Japan’s Early Industrialization,” ISER Discussion Paper No. 1091, The Institute of Social and Economic Research, Osaka University, June 2020

今仁祐輔・大山睦・平岩拓也・平峰芳樹「COVID19拡大による経済ショック：企業間取引ネットワークからの考察」TDB-CAREE ディスカッションペーパーシリーズ No. J-2020-05 TDB-CAREE, 2020年9月

Kambayashi, Ryo, Atsushi Ohyama and Nobuko Hori, “Management Practices in Japan: Survey Evidence from Six Industries in JP MOPS,” ESRI Working Paper Series No. 57, Economic and Social Research Institute Cabinet Office, April 2021

3. コンファレンス, 学会発表

大山睦「企業のマネジメント生産性」経済産業省研究会, 2020年6月, オンライン

大山睦「A Role of Management Practices as Productivity Enhancement Device」RIETI 研究会, 2020年12月, オンライン

大山睦「A Role of Management Practices as Productivity Enhancement Device」北海道大学地域経済経営ネットワークセンター研究会, 2021年2月, オンライン



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学
ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

軽部大・古瀬公博・内田大輔・岩崎繁・石川昌弘・井上隆博（著）『商業 706 ビジネス・マネジメント』実教出版，2022年1月25日発行予定，182頁

1.2. 論文，本の1章

軽部大「ビジネス・ケース：中村ブレイス 声なき声を拾い、形にする」『一橋ビジネスレビュー』68巻1号，2020年6月，144-158頁

軽部大「連載 企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（1）：企業はいかに社会的課題に取り組むべきか」『一橋ビジネスレビュー』68巻2号，2020年9月，108-115頁

軽部大「連載 企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（2）：企業の社会的責任とは何か」『一橋ビジネスレビュー』68巻3号，2020年12月，98-107頁

軽部大・江川雅子「新しい協働のあり方を考える」『一橋ビジネスレビュー』68巻3号，2020年12月，66-81頁

軽部大「連載 企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（3）：ビジネスから共生社会を考える」『一橋ビジネスレビュー』68巻4号，2021年4月，142-151頁

2. コンファレンス, 学会発表

Karube, Masaru, “Unequal Organizational Reactions to Errors by Individual Professionals: How Audit Firms Assign Their Clients to Accountants Involved in Financial Restatements,” Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE) 2020 Annual Conference, Virtual on July 20, 2020, refereed



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

カン・ビョンウ「教育産業でのDX」『一橋ビジネスレビュー』68巻2号, 2020年10月, 80-93頁

Kang, Byeongwoo, “How the COVID-19 Pandemic Is Reshaping the Education Service,” in Lee, Jungwoo and Spring H. Han eds., *The Future of Service Post-COVID-19 Pandemic, Volume 1: Rapid Adoption of Digital Service Technology*, Singapore: Springer, February 2021, pp. 15-36, refereed

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Tomiura, Eiichi, Banri Ito and Byeongwoo Kang, “Characteristics of Firms Transmitting Data Across Borders: Evidence from Japanese Firm-level Data,” RIETI Discussion Paper Series 20-E-048, May 2020

Kang, Byeongwoo and Kaoru Nabeshima, “National Origin Diversity and Innovation Performance,” WIAPS Discussion Paper Series 2020-E-2, September 2020

Matsumoto, Kuniko, Sotaro Shibayama, Byeongwoo Kang, and Masatsura Igami, “A Validation Study of Knowledge Combinatorial Novelty,” NISTEP Discussion Paper No. 190, November 2020

Kang, Byeongwoo and Kazuyuki Motohashi, “Local Industry Influence on Commercialization of University Research by University Startups,” RIETI Discussion Paper Series 20-E-086, November 2020

3. コンファレンス, 学会発表

Kang, Byeongwoo, “5G Standard Essential Patents: Huawei’s Case,” IPCIT Project Workshop, hosted by the University of Tokyo, September 11, 2020, Zoom, invited

Kang, Byeongwoo, “Huawei in 5G - ASEAN’s Choice?,” Korea-ASEAN Collaboration Seminar, hosted by Yonsei University, December 14, 2020, Zoom, invited

Kang, Byeongwoo, “Patent Data Analysis & SEP Issues,” Korea-ASEAN Collaboration Seminar, hosted by Yonsei University, December 28, 2020, Zoom, invited

Kang, Byeongwoo, “Regional Industry and Academic Startup,” Workshop on Empirical Economics, hosted by Nihon University, January 15, 2021, Zoom, invited

Kang, Byeongwoo, “Huawei in 5G Standard Essential Patents,” IPCIT Project Workshop, hosted by Zhejiang University, March 11, 2021, Zoom, invited



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Itoh, Ryo and Kentaro Nakajima, “Do Sourcing Networks Make Firms Global? Microlevel Evidence from Firm-to-firm Transaction Networks,” *The Japanese Economic Review*, Vol. 72, Issue 1, January 2021, pp. 65-96, refereed

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

井上寛康・岡崎哲二・齊藤有希子・中島賢太郎「戦前期日本のイノベーション活動：特許情報の電子化によるアプローチ」RIETI Discussion Paper Series 20-P-012, 2020年4月

Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima, and Stephen Redding, “Consumption Access and Agglomeration: Evidence from Smartphone Data,” NBER Working Paper No. 28497, February 2021

Yamasaki, Junichi, Kentaro Nakajima, and Kensuke Teshima, “From Samurai to Skyscrapers: How Historical Lot Fragmentation Shapes Tokyo,” TDB-CAREE Discussion Paper Series E-2020-02, March 2021

3. コンファレンス, 学会発表

Nakajima, Kentaro, “The Role of Online Communication on Innovation,” IIR Brown Bag Lunch Seminar, September 16, 2020, IIR

Nakajima, Kentaro, “Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” Annual Meeting of the Applied Regional Science Conference, November 28, 2020, online

Nakajima, Kentaro, “The Role of Online Communication on Innovation,” The Second Workshop on “Adjustment to Globalization,” 2021, January 29, 2021, Keio University

Nakajima, Kentaro, “Estimating the Impact of Building Height Restrictions on Land Price: At the Kink Point of Building Height Limits in Fukuoka,” 10th European Meeting of the Urban Economics Association, April 29, 2021, online

4. 受賞

Best Paper Prize AREUEA (The American Real Estate and Urban Economics Association) Conference 2021

(受賞者：Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima and Stephen J. Redding, 研究成果：“Consumption Access and the Spatial Concentration of Economic Activity: Evidence from Smartphone Data”, 2021年6月)



吉岡（小林） 徹

■ 履歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

熊澤峰夫・上野ふき・久木田水生・井出和希・渡辺彩加・村上祐子・安藤悠太・吉岡（小林）徹・杉谷和哉・中村秀規・鈴木秀憲・東原紘道・宮野公樹（編）『学問の在り方：真理探究、学会、評価をめぐる省察』（株）ユニオン・エー，2021年3月，147頁

1.2. 論文，本の1章

Miyanoshita, Tomofumi, Tohru Yoshioka-Kobayashi and Daisuke Kanama, “Profiting from (Not Too Many) Package Designs: Evidence from a Firm Level Design Registration Analysis in the Food Manufacturing Industry,” *British Food Journal*, Vol. 122, No. 7, April 2020, pp. 2233-2251, refereed

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, Tomofumi Miyanoshita and Daisuke Kanama, “Revisiting Incremental Product Innovations in the Food Manufacturing Industry: An Empirical Study on the Effect of Intellectual Property Rights,” *Journal of Economic Structures*, <https://journalofeconomicstructures.springeropen.com/articles/10.1186/s40008-020-00213-5>, April 2020, refereed

吉岡（小林）徹・丸山裕貴・平井祐理・渡部俊也「『本郷バレー』はなぜ生まれたか：大学発ベンチャー集積の理由」『一橋ビジネスレビュー』67巻4号，2020年4月，46-60頁

網中裕一・吉岡（小林）徹「日本におけるクラウドファンディングを通じた科学研究支援の動機」『研究 技術 計画』35巻1号，2020年5月，77-95頁，査読有り

吉岡（小林）徹・袁賓師「不況を勝ち抜くためのイノベーションマネジメント：経営学から見る不況下の研究開発と、イノベーション活動の定跡」『一橋ビジネスレビュー』68巻2号，2020年9月，96-107頁

Yoshioka-Kobayashi, Tohru and Sotaro Shibayama, “Early Career Training and Development of Academic Independence: A Case of Life Sciences in Japan,” *Studies in Higher Education*, <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/03075079.2020.1817889>, September 2020, refereed

秋池篤・吉岡（小林）徹「自動車のデザイン創出活動の変化と地域：東北への含意」折橋伸哉（編）『自動車産業のパラダイムシフトと地域』創成社，2021年1月，所収，第3章，102-125頁

吉岡（小林）徹「国内学会が直面する失敗の本質に関する一考察：なぜ一部の学術領域で学会の運営が苦しくなっていたのか」熊澤峰夫・上野ふき・久木田水生・井出和希・渡辺彩加・村上祐子・安藤悠太・吉岡（小林）徹・杉谷和哉・中村秀規・鈴木秀憲・東原紘道・宮野公樹（編）『学問の在り方：真理探究、学会、評価をめぐる省察』，（株）ユニオン・エー，2021年3月，所収，78-94頁

吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（1）：デザイン思考の効果と限界」『一橋ビジネスレビュー』68巻4号，2021年3月，152-159頁

吉岡（小林）徹「連載：イノベーションマネジメントの定石（2）：着想を促す『つながり』の科学」『一橋ビジネスレビュー』69巻1号，2021年6月，108-113頁

1.3. その他

吉岡（小林）徹・青木大也・秋池篤・森永泰史「意匠法改正についての経営学と法学の架橋：特に経営学からみた評価」『IP ジャーナル』13巻，2020年6月，19-27頁

吉岡（小林）徹「米中の技術的なデカップリングと大学の国際共同研究への影響」『東京大学未来ビジョン研究センター安全保障研究ユニット 2020年度エッセイ・シリーズ No. 4』2021年2月，
https://ifi.u-tokyo.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/02/ssuessay4_Yoshioka_210202.pdf

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー，ケーススタディ

Aminaka, Hirokazu and Tohru Yoshioka-Kobayashi, “Determinants of Donations to a Scientific Research: An Experimental Study of Motivations for Crowdfunding in Japan,” IIR Working Paper WP#20-09, April 2020

吉岡（小林）徹「先端技術領域での国際的な知識伝播の現状の可視化：米中の技術的なデカップリングを検討する素材として」『平和研 研究ノート 経済安全保障研究会 研究報告 No. 4』2020年11月

渡部俊也・平井祐理・吉岡（小林）徹・金間大介・立本博文・古谷真帆・永沼麻奈香「企業において発生するデータの管理と活用：質問票調査による実態把握」RIETI Discussion Paper Series 20-J-017，2021年3月

吉岡（小林）徹・柴山創太郎「生命科学・情報科学分野における修士課程学生のキャリア
選択要因の分析ーなぜ日本の博士課程進学者は減少し、どのような対策が選択肢となる
のか」東京大学未来ビジョン研究センターワーキングペーパー No. 21-4, 2021年3
月

2.2. 調査研究報告書

安本雅典『戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）第2期／自動運転（システム
とサービスの拡張）／知財戦略の構築に向けた立案に関する調査』横浜国立大学，
第2章・第3章（一部）を執筆，2021年

2. 兼任研究員——2020年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 飯屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 神林 龍

一橋大学経済研究所 教授

■ 楠木 建

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 准教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

3. 外国人研究員（客員）——2020年度

■ ヴィリ・レドンヴァータ Vili LEHDONVIRTA

Associate Professor, University of Oxford

研究テーマ「Platform Economy」

2020年4月1日～2020年9月30日

■ イ・ヒジン LEE, Heejin

Professor, Graduate School of International Studies, Yonsei University

研究テーマ「(1) China's Rise in International Standardization / (2) The Geopolitics of Standards Wars」

2020年12月1日～2021年3月31日

III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2020年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」／「イノベーション経営特論 (Ph.D)」

秋冬学期 2 単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」／「イノベーション経済特論 (Ph.D)」

春夏学期 2 単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介および輪読によって、イノベーション研究についての最近の話題について理解する。

「知的財産特論」／「知的財産特論 (Ph.D)」 春夏学期 2 単位 江藤学、和泉章

特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「アントレプレナーシップ特論」／「アントレプレナーシップ特論 (Ph.D)」

春夏学期 2 単位 カン・ビョンウ

アントレプレナーシップ研究でアントレプレナーシップとクラスターに関する論文を読み、同テーマに関する議論の流れを把握すると共に実証分析方法について学ぶことを目的とする。それを踏まえ、これからどこに研究課題があるのかを考える。

「先端科学技術とイノベーション／先端科学技術とイノベーション (Ph.D)」

秋冬学期 2 単位 青島矢一、中島賢太郎

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度／イノベーションと政策・制度 (Ph.D)」

秋冬学期 2 単位 江藤学、市川類

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策／イノベーションと経営・経済・政策 (Ph.D)」

春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身に着ける。

「イノベーション研究方法論／イノベーション研究方法論 (Ph.D)」

春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学、大山睦、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身に着けることを目的とする。

「イノベーションの国際比較 B／イノベーションの国際比較 B(Ph.D)」

秋冬学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? The purpose of this course is to gain a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is all the more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「技術戦略特論／技術戦略特論 (Ph.D)」 秋冬学期 2 単位 青島矢一、吉岡（小林）徹

技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ／イノベーションリサーチセミナーⅠ (Ph.D)」

春夏学期 2 単位 青島矢一、江藤学

「イノベーションリサーチセミナーⅡ／イノベーションリサーチセミナーⅡ (Ph.D)」

秋冬学期 2 単位 青島矢一、江藤学

「演習／演習 (Ph.D)」 通年 6 単位

青島矢一、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、吉岡（小林） 徹

「副演習／副演習 (Ph.D)」 通年 4 単位

青島矢一、和泉章、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、
パドロン・エルナンデス、吉岡（小林） 徹

2. MBA コース

「経営組織」 秋冬学期 2 単位 青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことであり、そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」 春夏学期 2 単位 大山睦

ミクロ経済学の枠組みを用いて、企業の様々な行動を考察する。産業組織論を中心に企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題にそれらを応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、組織の経済学、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、契約論である。

「ワークショップ」 通年 6 単位 軽部大

「導入ワークショップ」 春夏学期 2 単位 軽部大

「基礎ワークショップ」 秋冬学期 2 単位 軽部大

3. EPSON（エプソン経営リーダー育成プログラム）

第3クール

青島矢一：

「イノベーション論」2020年10月23日・24日

4. HFLP（一橋大学財務リーダーシップ・プログラム）

青島矢一：

B コース 第5セッション：「経営戦略論」2020年11月6日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」春学期2単位 吉岡（小林）徹

イノベーションについての基本的な事項を理解した上で、それをどのようにマネジメントしていくのかについての基本的な考え方を身につけることを目標とする。

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介および輪読によって、イノベーション研究についての最近の話題について理解する。

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」秋学期2単位 大山睦

ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」冬学期2単位 中島賢太郎

統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。

「経済・経営指標入門」集中講義（冬1）2単位 大山睦（共同講義）

経営・会計・財務・経済事象に関する定量的指標を取り上げて、その基本的な考え方や見方を学び、より発展的な内容を学習していく際の基盤を形成することを主たる目的とする。

「イノベーションの国際比較 B」秋冬学期2単位 Ivar Padrón-Hernández

What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? The purpose of this course is to gain a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is all the more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」

春学期2単位 Ivar Padrón-Hernández

This course has two main aims: (1) to build a fundamental understanding of business and management in English and (2) to apply and expand that understanding through discussions about real-world examples. Together, the two aims allow students to gain insights not only through listening and reading, but also by actively testing and challenging different perspectives.

「Advanced Course in Management」

春学期2単位 Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing the different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international environment, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅰ」春夏学期2単位

大山睦、カン・ビョンウ、吉岡（小林）徹

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅱ」秋冬学期2単位

カン・ビョンウ、吉岡（小林）徹

「導入ゼミナールⅠ」春夏学期2単位 カン・ビョンウ、吉岡（小林）徹

「演習」通年4単位 青島矢一、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2020年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム（Innovation Management and Policy Program：IMPP）は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材を養成することを目的とした、博士レベルのサーティフィケートプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点事業（領域開拓拠点）による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士課程に所属する学生その他、他大学の博士課程の学生、ポストドクトラルフェロー、その他、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）が参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜と土曜日開講の授業、夏期の集中講義を中心に構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」（3科目）、「選択必修科目」（2科目）の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2020年度在学学生 34名

	2019 年度入学	2020 年度入学
社会人学生	7 名	6 名
一橋大学博士後期課程学生	1 名（0 名）	4 名（4 名）
その他（再入学者含む）	1 名	0 名

（）内は経営管理研究科の学生

■ 2020年度の主な行事

6 月 6 日から 6 月 7 日	【学会発表（教員 2 名、学生 4 名）】 2020 年度組織学会研究発表大会 会場：ZOOM アプリによるオンライン
8 月 25 日から 8 月 26 日	IIR サマースクール 2020 会場：ZOOM アプリによるオンライン
9 月 19 日	SciREX サマーキャンプ代替イベント サマースクール 会場：ZOOM アプリによるオンライン
9 月 20 日	IMPP 独自サマーキャンプ 会場：ZOOM アプリによるオンライン
10 月 31 日から 11 月 1 日	【学会発表（教員 5 名、学生 11 名）】 研究・イノベーション学会 第 35 回年次学術大会 会場：ZOOM アプリによるオンライン

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学／中島賢太郎／大山睦

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学／中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期 2 単位

青島矢一／中島賢太郎

社会学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期 2 単位

青島矢一／江藤学

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期 2 単位

青島矢一／江藤学

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ -1. 参照）

「知的財産特論／知的財産特論（Ph.D）」春夏学期 2 単位 江藤学／和泉章

「イノベーション経済特論／イノベーション経済特論（Ph.D）」春夏学期 2 単位
中島賢太郎

「イノベーション経営特論／イノベーション経営特論（Ph.D）」秋冬学期 2 単位
軽部大

「イノベーションと政策・制度／イノベーションと政策・制度（Ph.D）」秋冬学期 2 単位
江藤学／市川類

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2020年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／サイバーダイナミクス株式会社 CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 和泉章 市川類 江藤学 大山睦 加賀谷哲之

加藤俊彦 軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 島貫智行 中島賢太郎 中野誠 沼上幹

野間幹晴 パドロニ＝エルナンデス・イバ 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）

徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽 茂（早稲田大学） 生稲史彦（中央大学） 糸久正人（法政大学） 金井壽宏（立命館大学） 栗木 契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学）

清水勝彦（慶應義塾大学） 清水 洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石 彰（学習院大学） 長岡貞男（東京経済大学） 楡井 誠（東京大学） 延岡健太郎（大阪大学）

藤本隆宏（東京大学） 守島基博（学習院大学） 米山茂美（学習院大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国）

李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第68巻1号 2020年6月

○特集「コーポレート・ベンチャリング」

日本企業の内部留保が500兆円を超える規模になり、企業には多くの優秀な人材も存在している。これらの経営資源を活用して、いかに新しいビジネスを創出できるかが、今後の日本経済の成長のカギとなる。本特集では、企業に蓄積された資源をいかにイノベーションや新規事業につなげることができるのかをテーマに、ICV（社内ベンチャー）、CVC（コーポレート・ベンチャー・キャピタル）、カーブアウトなど、さまざまな手段を通じた事業創造を成功させるための要諦を、海外の著名研究者からの寄稿も交えて、多角的に議論する。

○特集論文

マイケル・A・クスマノ「日本が直面するイノベーションとアントレプレナーシップの課題」

青島矢一／一之瀬裕城／田浦英明「既存企業からの資源循環による新事業創出」

野間幹晴「コーポレート・ベンチャリングと脱成熟：日米企業のライフサイクルと利益率」

ジェフリー・ベーレンス／クリストファー・L・トゥッチ「CVCはベンチャー企業を成功に導くか」

青島矢一／村上隆介「旭化成のコーポレート・ベンチャーキャピタル：ベンチャー投資による新規事業の創出」

○特別寄稿

グレーヴァ香子／三橋平「数学イノベーション：モデル駆動型イノベーションの特徴と事例研究から見る日本企業の可能性」

○連載

吉田博一「産業変革の起業家たち（3）：安全な大型リチウムイオン電池の開発と普及で環境問題・エネルギー問題の解決に挑む」 インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

鈴木智子「全員経営のブランドマネジメント（6）：全員経営のブランドマネジメントの原理原則」

江藤学／鷲田祐一「日本発の国際標準化 戦いの現場から（10）：高周波関連部材：『測る』力による国内産業の支援」

○ビジネス・ケース

坪山雄樹／藤原雅俊／若色譲二／遠藤貴宏

「永和システムマネジメント：アジャイル開発と開発者コミュニティ」

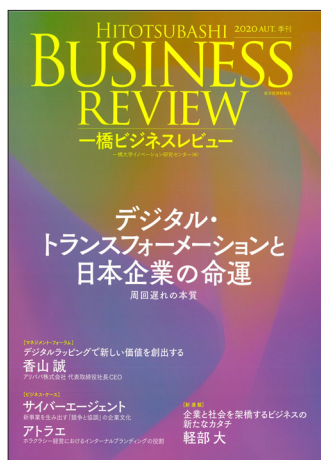
軽部大「中村ブレイス：声なき声を拾い、形にする」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／野間幹晴

土川元（Sony Innovation Fund チーフインベストメントマネジャー, Innovation Growth

Ventures 株式会社 代表取締役社長／チーフインベストメントオフィサー）

「ソニーのリソースを活かした探索機能を担う新しい事業戦略としての CVC」



■『一橋ビジネスレビュー』 第68巻2号 2020年9月

○特集「デジタル・トランスフォーメーションと日本企業の命運」

日本の社会経済がその生産性・効率性において大きく後れを取っている。2019年の労働生産性の国際比較ランキングで、日本は先進36カ国中21位である。G7諸国（米・独・英・仏・伊・加）で最下位、さらにはスペインやオーストラリア、北欧の国々よりも低い結果となっている。日本人がまじめに働いていないのだろうか。いや、おそらく最も勤勉に働いている国の1つだろうが、デジタル化において決定的な後れを取っているのである。今回のコロナ禍は、ビジネスはもちろん教育・行政にもさらなる生産性向上とデジタル化を強制するだろう。今、この時期に、デジタルによる社会変革（トランスフォーメーション）を真摯に考えてみたい。

○特集論文

立本博文／生稲史彦「DXの過去、現在、未来」

村田聡一郎「ヒトではなく、電子を走らせろ。電子は疲れない」

ユー・ヨンジン「DX戦略に不可欠な3つの問い」

藤井保文「DXの目的は『新たなUXの提供』である：中国平安保険グループに見るサービス・メーカー融合型のDX」

ヴィリ・レードンヴィルタ「労働市場におけるDX：時間と場所にとらわれない、契約ベースのオンラインワークの台頭」

カン・ビョンウ「教育産業でのDX」

○特別寄稿

吉岡（小林）徹／袁賓師「不況を勝ち抜くためのイノベーションマネジメント：経営学から見る不況下の研究開発と、イノベーション活動の定跡」

○連載

軽部大「企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（1）：企業はいかに社会的課題に取り組むべきか」

小椋一宏「産業変革の起業家たち（4）：デジタルネイティブな経営者が切望する『誰にでも最先端のテクノロジーを』」 インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

遠藤貴宏／小阪玄次郎「サイバーエージェント：新事業を生み出す『競争と協調』の企業文化」

鈴木智子「アトラエ：ホラクラシー経営におけるインターナルブランディングの役割」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎

香山誠（アリババ株式会社 代表取締役社長 CEO）

「デジタルラッピングで新しい価値を創出する」

○エッセイ

野中郁次郎「コロナ禍で徒然に考えたこと」



■『一橋ビジネスレビュー』 第68巻3号 2020年12月

○特集「新しい会社の形とガバナンス」

経済格差の拡大、ポピュリズムの台頭など資本主義の矛盾があらわになる一方、ESG 投資の拡大、アメリカのビジネス・ラウンドテーブルによる「株主第一主義」の見直し、「使命を果たす会社」に関するフランスの法改正など、株式会社のあり方を問い直す動きが出てきている。また、20世紀初頭に確立した株式会社は、ヒエラルキーと大きな資産が特徴だが、近年、フラットな組織、フリーランスなど外部資源の積極的活用、ユニークな評価・報酬制度など、会社の新しい形態を模索する動きも見られる。21世紀の新しい会社のかたちとそのガバナンスはどうあるべきか、本特集において、さまざまな角度から考察する。

○特集論文

岩井克人「会社の新しい形を求めて：なぜミルトン・フリードマンは会社についてすべて間違えたのか」

コリン・メイヤー「多元主義に向けた新しいガバナンスモデル：繁栄、金融と所有構造」

銭谷美幸「直近の ESG 投資動向から見る『求められる会社』：機関投資家としての考察」

上田亮子「経済社会構造の変化とコーポレートガバナンスの新潮流：企業価値向上とサステナビリティとの調和」

軽部大／江川雅子「新しい協働のあり方を考える」

チャールズ・D・レイク II 「ステークホルダー資本主義と日本企業：共有価値の創造（CSV）ガバナンスの戦略的な実践」

○連載

軽部大「企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（2）：企業の社会的責任とは何か」

小里文宏「産業変革の起業家たち（5）：ナスダック上場を果たした日本人起業家が勧める『あとちょっとだけやり続ける』ことの意味」 インタビュアー 藤原雅俊

○ビジネス・ケース

積田淳史／久保田達也／矢崎智基／沖賢太郎

「KDDI：au design project がめざしたデザインケータイによるブランド刷新」

六田充輝／青島矢一

「クラレ：日本発のエンブラ『ジェネスタ』とそのイノベーションのプロセス」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 江川雅子／軽部大

吉田憲一郎（ソニー株式会社 取締役 代表執行役 会長兼社長 CEO）

「人を軸とした事業ドメインで新しいソニーをつくる」

○投稿論文

工藤秀雄／延岡健太郎「技術経営リーダーへの軌跡：経験蓄積と学習のプロセス」



■『一橋ビジネスレビュー』 第68巻4号 2021年3月

○特集「働き方改革の本質」

日本の労働生産性は、他の G7 諸国（アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、カナダ）に追い抜かれ、OECD35 カ国中で 21 位である。労働時間の短縮を主眼とする「働き方改革」が叫ばれているが、その本質はここまで低下してしまった生産性の回復に他ならない。もちろん、背景には周回遅れとなった DX や労働慣行見直しの遅れがあるが、現状認識の甘さにも大きな要因があるといえる。また、経済協力開発機構（OECD）の調査によると、1997 年を 100 とした先進国の賃金指数は、2017 年にはアメリカ 176、イギリス 187、フランス 166、ドイツ 155 であるのに対して、日本は 91 である。日本は低生産性・低賃金国家に成り下がっているということだ。本特集では、いかに日本の生産性を上げ、賃上げを実現していくかについて議論したい。

○特集論文

- 有田賢太郎／児玉直美／酒井才介／高橋孝平「働き方改革の広がり と生産性への影響」
 大山睦／北川諒／堀展子「データや AI の利用は生産性とイノベーションに結びつくのか」
 市川類「政府のデジタル化と生産性の向上」
 原泰史／中園宏幸／今川智美「『デジタル』になりきれない企業の形：テレワークと DX を活用した新たなマネジメントに向けて」
 中村天江「なぜ日本の労働者は低賃金を甘受してきたのか：ボイスメカニズムの衰退と萌芽」
 佐藤文男「有意義な人生を送るための生涯現役戦略：『自助の時代』を前向きに生き抜くキャリア設計」
 服部泰宏「日本企業における『スター社員』の実態に迫る」

○特別寄稿

- 野中郁次郎／川田弓子／大垣交右
 「動態経営の本質：経営学と現象学を総合するヒューマナイジング・ストラテジー」

○連載

- 福澤知浩「産業変革の起業家たち（6）：『空飛ぶクルマ』でモビリティ革命に挑む」
 インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊
 軽部大「企業と社会を架橋するビジネスの新たなカタチ（3）：ビジネスから共生社会を考える」
 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（1）：デザイン思考の効果と限界」

○ビジネス・ケース

- 稲垣豊／藤井奏枝／新聞寛太郎／古橋健太郎／羽鳥洋介「メガネスーパー：V 字回復を成し遂げた組織変革」
 藤原雅俊「木村鋳造所：事業承継と経営理念の刷新」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎

- 熊谷正寿（GMO インターネット株式会社 代表取締役会長兼社長・グループ代表）
 「成長する仕組みとコミュニケーションの貯金があればテレワークは武器になる」

○第20回 ポーター賞 大園恵美「ポーター賞受賞企業・事業に学ぶ」

2. ワーキングペーパー——2020年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している（[http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=2&cid\[\]=6&cid\[\]=7&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=2&cid[]=6&cid[]=7&s=dd&ppc=20)）。

- | | |
|----------|--|
| WP#20-09 | Aminaka, Hirokazu and Tohru Yoshioka-Kobayashi, “Determinants of Donations to Scientific Research: An Experimental Study of Motivations for Crowdfunding in Japan,” April 2020 |
| WP#20-10 | 原泰史・今川智美・大塚英美・岡嶋裕子・神吉直人・工藤秀雄・高永才・佐々木将人・塩谷剛・武部理花・寺畑正英・中園宏幸・服部泰宏・藤本昌代・三崎秀央・宮尾学・谷田貝孝・中川功一・IR 総研「新型コロナウイルス感染症への組織対応に関する緊急調査：第一報」2020年5月 |
| WP#20-11 | 服部泰宏・岡嶋裕子・神吉直人・藤本昌代・今川智美・大塚英美・工藤秀雄・高永才・佐々木将人・塩谷剛・武部理花・寺畑正英・中川功一・中園宏幸・宮尾学・三崎秀央・谷田貝孝・原泰史・IR 総研「新型コロナウイルス感染症への組織対応に関する緊急調査：第二報」2020年5月 |
| WP#20-12 | 佐々木将人・今川智美・塩谷剛・原泰史・岡嶋裕子・大塚英美・神吉直人・工藤秀雄・高永才・武部理花・寺畑正英・中園宏幸・中川功一・服部泰宏・藤本昌代・宮尾学・三崎秀央・谷田貝孝・IR 総研「新型コロナウイルス感染症への組織対応に関する緊急調査：第三報」2020年5月 |
| WP#20-13 | Okada, Yoshimi, “The Screening Function of International Search Authorities under the Patent Cooperation Treaty: Evidence from the Japanese Government’s Policy Change in 1999,” July 2020 |
| WP#20-14 | 市川類「何故、日本の行政手続のデジタル化は遅れているのか～海外比較組織論からの考察」2020年8月 |
| WP#20-15 | 市川類「AI 原則の体系化と今後のガバナンスの方向～デジタル・AI におけるイノベーションと社会制度の共進化～」2020年10月 |
| WP#20-16 | 市川類「『何故、日本のデジタルイノベーションは遅れているのか』～デジタルイノベーションシステムの比較制度分析からみた日本企業・政府の構造的課題～」2020年12月 |

WP#20-17	Kimura, Megumi, “Creative Turn: Streaming Innovation,” December 2020
WP#20-18	Kimura, Megumi, “Giants and Angels: Innovation on the Lines,” December 2020
WP#20-19	Kimura, Megumi, “Life of Designs: The Perfection of Co-Adaptation,” December 2020
WP#21-01	Kimura, Megumi, “On the Economy of Machine and Intelligence: Differences and Analytics of Innovation,” January 2021
WP#21-02	市川類「イノベーション論からみたデジタルトランスフォーメーション (DX)」2021年2月

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research